

「阪神淡路20年ー1.17は忘れないー」



平成26年5月23日

兵庫県

まもなく、阪神淡路20年……

現状 ・震災を経験していない住民の増加
・自然災害の激甚化や南海トラフ巨大地震の切迫
・東日本大震災等による新たな知見の蓄積、関西
広域連合等の連携や地域ぐるみ実践活動の進展
・国連防災世界会議への発信の必要性

課題 ・震災の経験と教訓の発信、次世代への継承
・活動団体の一層の活性化
・大規模災害に対する実践的な備え
・国内外への教訓の発信
・これまでの被災地兵庫の成果の発展・発信

基本方針

基本コンセプト 1. 17は忘れない『伝える』『備える』『活かす』

事業展開 県民、各種団体等による多彩な取り組みを促進

- ◇事業期間 平成26年4月から1年間
- ◇実施地域 兵庫県内全域（事業で連携する県外地域を含む）
- ◇事業構成 メイン事業、県事業、市町事業、一般事業
- ◇推進母体 ひょうご安全の日推進県民会議
（構成団体による事業実施や県民への事業実施・参加の呼びかけ）
- ◇事業支援 ひょうご安全の日推進事業助成制度の拡充
（地域・全県事業、実践活動事業、行政と民間との協働事業）
- ◇広報展開 県民総参加減災キャンペーン、あらゆる広報媒体の活用



主な事業

○メイン事業

『伝える』

大震災の犠牲者への追悼、経験と教訓を忘れず地域や世代を超えて伝える。

◇事業例 追悼式典、人と防災未来センターメモリアル展示

『備える』

次なる大災害の被害を可能な限り減らすため県民総ぐるみで備える。

◇事業例 県民総参加「減災」キャンペーン、超巨大災害対策総合シンポジウム

『活かす』

被災地兵庫の成果を発信し、国内外の防災・減災の取り組みに活かす。

◇事業例 復興制度提言事業、兵庫行動枠組の評価検証、国際復興フォーラム



— 今後の大規模災害に『活かす』取り組み —

◇東日本大震災の経験を活かす

・復興制度提言事業

阪神・淡路と東日本大震災の復旧復興制度を比較分析し、東日本大震災や今後の南海トラフ巨大地震等からの復旧復興に向けた提言を発信。



◇国連防災世界会議(仙台)への発信

・阪神・淡路大震災被災地による「兵庫行動枠組」の評価・検証

被災地兵庫として行動枠組の取り組みを検証しその成果を国連防災世界会議に向けて発信。

・国際復興フォーラム2015

復興における課題を明らかにし創造的復興の実現する方策等を国際防災世界会議に向けて発信。

<メイン事業一覧>

	項 目	事 業 名	実施時期
『伝える』 震災教訓の継承発信	犠牲者への追悼	ひょうご安全の日のつどい	H27.1.17
	震災復興の振り返りや教訓の継承・国内外への発信	震災メモリアル特別展示	H26.12～
		語り部のつどいー地域・世代を越えて震災を伝えるー	H27.3
		“心に歌声を”スペシャルコンサート	H27.1
		県立美術館 展覧会	H26.11～
	子どもたちが学び・伝える防災教育・防災体験	ミュージアムロードシンボルオブジェ設置と関連イベント	H26.11、H27.1
ひょうご・東北交流公演 ピッコロ劇団ファミリー劇場「飛んで孫悟空」	H26.8		
『備える』 大災害に負けない実践	住宅耐震化や室内安全対策等命を守る行動の定着	県民総参加「減災」キャンペーン	H26.4～H27.3
	南海トラフ巨大地震に備える広域連携や新たな取り組みの実践	消防団活性化支援事業	—
		超巨大災害対策総合シンポジウム	H27.1
		広域防災センター防災拠点実戦デモ	H26.11
		災害時要援護者サポートミーティング	H26.11
		ひょうご水土里のふるさとフォーラム	H26.12
		「伝える・繋げる/in兵庫」	—
		阪神・淡路大震災と東日本大震災の復興まちづくり	—
	歴史博物館「災害と歴史遺産」	H27.1～3	
	耐震補強や防潮堤などハード整備の研究	「巨大津波に備える」シンポジウム	H26.11
水道災害シンポジウム	H27.1		
『活かす』 復興の成果の発展	震災復興の成果や先導的取り組みの発信・提案	兵庫県立大学国際シンポジウム	H27.1
		1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」10周年事業	H26.6～9
		男女共同参画の視点からの防災・復興フォーラム	H26.6～H27.3
	東日本大震災等の教訓の共有による復旧復興制度の提案	復興制度提言事業	—
	国連防災世界会議に向けた提言発信	阪神・淡路大震災被災地による「兵庫行動枠組」の評価・検証	H27.3
		国際復興フォーラム2015	H27.1
	NPO等震災復興で発展した団体の活動成果の発信・提案	ボランティア活動の調査検証・促進事業	H26.4～H27.3
被災地支援の成果の発信	「こころのケア」シンポジウム	H26.11	
災害文化が未来に繋がる仕組みの発展	防災教育フォーラムー命を守る絆を育む「兵庫の防災教育」の展開ー	H26.11	

○県・市町事業

震災復興の成果の発信や今後の災害に向けた防災・減災の取り組みなど県・市町が実施する事業

<事業例>

- ・震災20年シンポジウムー兵庫県住宅再建共済制度推進大会ー
- ・第4回神戸マラソン
- ・神戸市防コミ大会
- ・北淡国際活断層シンポジウム
- ・各市町が実施する総合防災訓練・追悼式典 等



○一般事業

県民・グループ、地域団体、NPOなど各界各層が自主的・主体的に取り組むさまざまな事業。ひょうご安全の日推進事業助成制度により支援。



<ひょうご安全の日推進事業助成制度>

県民グループ・民間団体等による震災の経験と教訓を発信し、日々の生活の中で減災に取り組む「災害文化」の定着に貢献する事業を支援する制度。26年度は「阪神淡路20年」の取組みを支援するために助成内容を拡充した。

[着色部分：新規拡充分]

助成区分		対象経費に対する助成		申請時期
		補助率	上限額	
一般事業	地域事業(現行)	定額(概ね 1/2)以内	50万円	助成申請:年3回 (2月下旬~、5月上旬~、8月下旬~)
	実践活動事業	定額 15万円まで 10/10 15万円超部分 1/2以内	30万円	助成申請:随時
	全県事業(現行)	定額(概ね 1/2)以内	100万円 (特認 250万円)	助成申請:年3回 (2月下旬~、5月上旬~、8月下旬~)
	共同事業	定額(概ね 3/4)以内	200万円	提案申請:H25.11、助成申請:H26.3
	行政と民間との協働事業	定額(概ね 1/2)以上	100~500万円 (特認 1,000万円)	助成申請:随時

幅広い参画の呼びかけ

○「減災活動の日」の取組みの推進

- ・毎月17日を「減災活動の日」に決定(ひょうご安全の日推進県民会議)
- ・家庭、地域、職場等での取組みの推進



○恒例の各種大会、イベント、会合等への「減災」の内容の付加

の呼びかけ

<例>家具固定のための室内安全器具の提供、備蓄物資の購入、非常持出袋の配布、フェニックス共済の加入啓発、防災学習会の開催、運動会でのバケツリレー 等

○「阪神淡路20年」の事業趣旨に賛同し県民が

参加できるイベントや行事の登録促進

- ・県民会議の広報媒体の活用やロゴマークの使用によるPR



<https://www.facebook.com/shinsai20>

○啓発・発信の取組み

- ・県民総参加「減災」キャンペーンののぼりやパンフレットの活用
- ・各機関・団体等のホームページへのリンクバナーの貼り付け
- ・「阪神淡路20年」のフェイスブックやツイッターによる発信 等



https://twitter.com/117hyogo_20 7